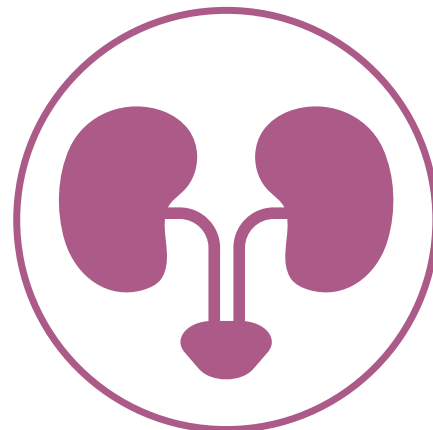




腎臓と泌尿器の疾患

猫の尿路感染症



尿路感染症 (UTI) は、生涯で猫の 1~2% が発症し、下部尿路疾患の徴候を示す猫の 2~19% に発症すると報告されています。

UTI は食事の影響を直接受けるものではありませんが、ボディコンディションスコアの高低、糖尿病、慢性腎臓病、尿路結石症など、栄養学的に反応するいくつかの状態や病気と関連しています。

キーメッセージ

- 猫が理想的な体調を維持できるような食事を与えることで、尿路感染症のリスクを減らすことができるかもしれません。
 - 研究では、猫の尿路感染症のリスク因子としてボディコンディションスコアの低さが特定されています。これは、痩せた猫の全身の免疫力の低下による可能性があります。
 - 過体重の猫は、尿路性器に手が届かず、グルーミングが困難な場合が多くなります。糞便中の細菌は、尿路性器に付着し（特に肥満の猫では、周囲に過剰な皮膚ひだがあり、細菌が生息しやすい環境となっています）、尿道から侵入し、尿路感染症を起こす可能性があります。
- 相反するデータがありますが、尿路感染症の多くある危険因子として、糖尿病または慢性腎臓病など栄養管理が重要な役割を果たす他の疾患の存在が示唆されています。猫が本来持っている免疫防御システムの崩壊が一因と見られています。
- 尿路感染症は尿結石の猫にも起こり得ます。猫の尿結石は、ストルバイトとシュウ酸カルシウムが最も一般的です。栄養は、既存のストルバイト尿石症の管理において重要な役割を果たし、ストルバイト尿石およびシュウ酸カルシウム尿石のいずれについても再発のリスクの低減に役立ちます。

追加のリソース

Dorsch, R., Teichmann-Knorrn, S., & Sjetne Lund, H. (2019). Urinary tract infection and subclinical bacteriuria in cats: A clinical update. *Journal of Feline Medicine and Surgery*, 21(11);1023-1038. doi: 10.1177/1098612X19880435

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。